

事業者ヒアリング結果

第3回伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会

平成29年12月5日

事業者アンケート結果（第2回再掲）

<目的>

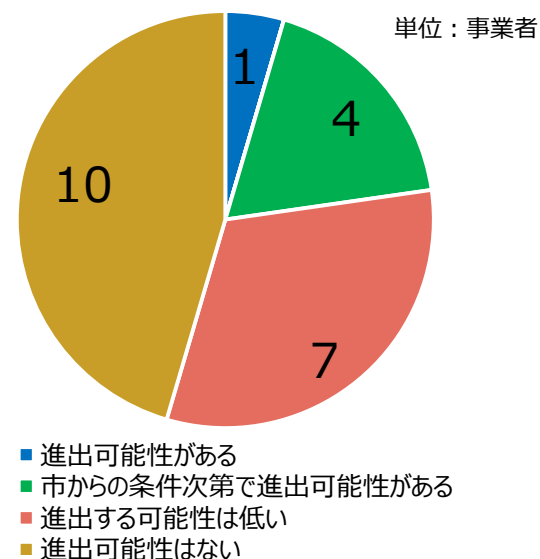
- 福島県北・宮城仙南医療圏にサ高住・有料老人ホーム事業所を運営する事業者に対し、高子地区における高齢者向け住まいの開発・運営意向を聴取した。

<結果>

- 23事業者中 **5事業者より進出の可能性あり**との回答。そのうち **1事業者については、市の支援なしでも進出を検討する**との回答。
- 進出に積極的な1事業者は、介護付有料老人ホーム・デイサービス施設・訪問介護施設の進出を、条件付きで進出を検討する事業者の内2事業者は、サービス付き高齢者住宅の進出を希望している。
- 市に求める支援制度としては、介護付有料老人ホームの進出を希望する事業者は人材確保支援、サ高住の進出を希望する事業者は土地代・賃料の減免を望んでいる。

アンケート概要

配布時期	平成29年7月3日～7月14日
配布件数	58事業者
回答事業者数	23事業者
回収率	39.7%



※今後、上記を含めて事業者の意向を確認。

事業者ヒアリング結果

『「伊達市版生涯活躍のまち」高齢者向け住宅・介護事業者進出可能性調査』において、進出可能性ありと回答した医療介護系事業者について、平成29年9月にヒアリングを実施した主な結果は以下。

【結果概要】

- サービス付き高齢者向け住宅＋小規模多機能型居宅事業所、グループホーム＋小規模多機能型居宅介護等に関して、条件次第で事業進出意向がある事業者が複数あり。
- 規模感は、グループホームの場合は18名程度（9名×2）、サービス付き高齢者向け住宅の場合は30～50戸程度。段階的整備や分担して整備運営の意向。
- 一方で、サ高住に本当にアクティブシニアが入居するのか疑問視する意見もあり。
- 移住者への訴求ポイントには、田舎暮らし・血縁・暮らしやすさ・環境・コストの割安感等がある。ただし、田舎暮らし・農などは、他地域との差別化のために、支援プログラムにおける工夫が必要。
- 多世代の要素がある方が高齢者にとっても魅力的になる（子・孫が訪れたくなる）。
- 大学連携、コミュニティスペースとしての場の提供、高齢者や障がい者が働く仕組みづくりも想定される。

事業者ヒアリング結果

伊達市版生涯活躍のまち構想に対するご関心、ご意見

●移住者への訴求ポイントとなり得る資源

- ◇ 田舎暮らし（動物の飼育、自然とのふれあい、農業、就農支援等）
- ◇ 市外からの入居要因は、血縁、暮らしやすさ、環境、予算
- ◇ コストの割安感

●移住、定住に向けたサービス、ターゲット像

- ◇ 生きがい、社会的な居場所作り、収入のための「働く場」の提供。
- ◇ サービス付き高齢者向け住宅の入居者の家族が訪問したい、泊まりたいと思うような住宅にするための多世代向けのサービス
- ◇ お風呂や交流スペース等の設置、運営
- ◇ 移住の魅力として「土いじり」「農」は1つの魅力。差別化には、作った作物が高価格で売れる仕組み等があれば、アクティブシニアだけでなく若者・子育て層でも来てくれるのではないかとよい。
- ◇ 就農支援でも、ノウハウ指導だけでなく、後継者育成に繋がる人のマッチングの仕組みがあるとよい。

●目指す姿

- ◇ 要介護が増える時期が2035年ごろとすれば、それまでの体制構築、地域連携の仕組みづくりが重要。
- ◇ デベロッパーに建物だけ作ってもらうだけではなく、移住後も生きがいを持って生活し続けてもらえる生涯活躍の仕組み、人との交流の仕組みが重要。
- ◇ 介護予防・日常生活支援総合事業の一環で、アクティブシニアや障がい者等の様々な人を巻き込んだ活動を検討してはどうか。
- ◇ 実際のサ高住は、要介護者・特定施設のビジネスモデル。元気な高齢者では、ビジネスが成立しにくい。
- ◇ アクティブシニアだけでは、期待する人数が集まらないのではないかと。若い人にも来てもらえるよう、子育て支援等も併せたほうが事業者も出てきやすい。
- ◇ 年金が70歳から支給となれば仕事も重要になる。
- ◇ 主な移住であるUターン、観光リピーターとのコネクションを持ち、移住に関心をもってもらえる情報提供が必要。

事業者ヒアリング結果

高子地区での高齢者向け住まいの整備運営・交流事業の実施へのご関心

●想定する事業

- ◇ 50戸程度のサ高住＋小規模多機能型居宅介護＋訪問看護事業所をコアとする形態
- ◇ ショートステイの1部屋を空けておき、地域の一般市民も体調不良時の一時的な宿泊場所として利用できるようにすることも考えられる
- ◇ 品質を担保したサービスを実施するとなると、30～40戸が望ましい。40×2や30×3などで介護医療院、特定施設、サービス付高齢者住宅等で住み分けした方が運営上、効率的
- ◇ 学生によるサ高住でのアルバイト、ボランティア活動との連携は可能
- ◇ 各種コミュニティ活動を行うためのスペースとして、高子地区外も含めた場所の提供

●進出の条件、課題

- ◇ 進出は面積、土地や建物建設に係る財政支援
- ◇ 介護人材、看護師の確保

●その他、期待する支援

- ◇ 国の補助金を踏まえた支援
- ◇ 伊達市が積極的に取り組んでいる事業であることがPRされると、それだけで人材が集まる。
- ◇ 介護施設における人員規制を緩めることで、障がい者や高齢者の働く場所が増える。
- ◇ コンソーシアムのメンバーとなる各事業者における取り組み（移住者募集等）は、伊達市と各事業者で契約していただく必要がある
- ◇ コミュニティ形成は、地元の協力がないとできない。そこは伊達市にも協力をしてもらいたい。